

【震災発生翌日～現在】

●陸前高田の姑の安否を気遣いながら、まずは水の確保に

翌 12 日の朝、テレビニュースで陸前高田のがれきが散乱する映像を見ました。姑の安否を心配しつつ、夫には朝から水の確保に行ってもらいました。ガスも止まり、風呂に入れないうちが始まりました。

しばらくして、伝言ダイヤルで徐々に親戚の生存情報が寄せられてきました。でも、姑の安否はまだわかりませんでした。Google パーソンファインダーも活用しました。これらを通して、これまでつきあいの無かった親戚とも何度もやりとりをしました。結果的にこのパーソンファインダーで姑の生存を確認することができました。

●トイレの水が流せないことが大きなストレスに

15 日になって水が出るようになりましたが、市から災害対策メールが回ってきて、トイレに紙を流さないようにとの指示がありました。紙を流してトイレを詰まらせたトラブルの情報などがツイッターにもあり、紙は流さずビニール袋に集めるようにしました。これが大きなストレスになり、便秘や下痢など排泄にも影響が出るようになりました。

また、水が使えないので、食器もまともに洗えず、パックに入ったチャーハンなどを買って食べていました。液状化の砂が空気中に飛散し、マスクをしないと外を歩けない状況も大きなストレスでした。

●お風呂に入って、ようやくほっとできた

姑の生存が判明してほっとした翌 16 日、お風呂に入ろうとお台場の大江戸温泉に出かけました。浦安市民は 500 円でホテルの浴場を利用できるという補助を利用して、シェラトンホテルにお風呂に入りに行ったこともありました。

28 日にガスが復旧しました。しかし余震もあったので、火災の心配もあって料理をする気にはなりません。料理をするようになったのは、6 月に入ってからのことです。

●経験から思う、今後の備え

今後の備えとして思い当たるのは、簡易トイレの準備。ビニール袋での代用は、においの問題があるからです。

また、電話での連絡は難しくなるので、それ以外の連絡先を確保しておくことも重要です。日頃からメールアドレスの交換をするなど、備えておいたほうがいいと思いました。